

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 山本 知也 殿

隊員氏名 山田 菜生子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2023年6月分】

1. 実施した活動の概要・状況

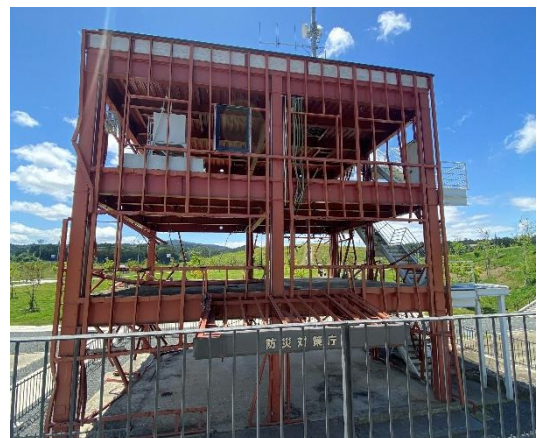
6月は、今秋実施予定の防災ワークショップ事業に向けて被災地見学や地域の防災ワークショップに参加するなど準備を進めた。また他の隊員の担当事業の手伝いや地域団体のイベント手伝いなどを通して、川内地域だけでなくむつ市全域の住民の方とたくさん交流することが出来た。

〈主な活動〉

○6月2日（金）、3日（土） 東日本大震災被災地見学

今年度、むつ市川内地域全体の防災意識、またそのためのコミュニティ意識の向上のため防災ワークショップを実施する予定である。その際、より新しく多角的な視点からの知識・情報をもってイベントを進めていくため、2011年東北地方へ甚大な被害を及ぼした東日本大震災の被災地へ足を運び、震災遺構を目にし、被災者や当時の避難所リーダー、復興支援活動を行った方々のお話を伺った。

1日目に見学した震災遺構「門脇小学校」では丁寧な防災活動や避難訓練により被災時、在校児童全員が裏山へ避難することが出来た。それに対し、もう一つの震災遺構「大川小学校」では避難が遅れたことにより半数以上の児童が津波の犠牲となった。また、南三陸ホテル観洋ではチリ地震津波の教訓を生かした備えを行っていたことで、宿泊客だけでなく多くの地域住民の命を救い、さらにはライフラインが断たれたホテルの中で宿泊客や地域住民が”人間らしい”生活が出来るよう安全な水や教育、娯楽の提供までいち早く行い、被災者の精神的負担を軽減することも出来た。このように防災・減災については必ず地域の中で取り組んでいく必要がある。その一方で、防災・減災について考えることのハードルの高さは私自身、21年間防災情報を見て見ぬふりしてきたこともあり、痛いほどわかる。重要だからこそ、伝え方を工夫しハードルを下げること、より多くの地域住民に災害について意識してもらう必要がある。災害の恐ろしさ、防災・減災情報の発信、やっておくべきことなど、これらを伝えるだけでは不十分で、災害時に地域住民一人一人が主体的に行動できるよう、伝えることにとどまらず、地域の方に実際に体を動かして体験してもらうなど体験や経験を川内町の皆さんへ提供できるよう準備を進められたらと思う。



○6月18日(日) ガサガサ探検隊

川内地区北部を流れる湯野川でガサガサ(生き物採集)イベントを実施した。むつ市内の親子を対象に実施した本イベントには、川内地区になかなか来る機会のなかった子どもたちも参加しており、きれいな川にしか生息しない様々な生き物を探索しながら湯野川の魅力を体感してもらえたように思う。

ガサガサイベントは定期的に行われるため、協力隊の中で定期的な安全や自然環境に対する情報共有を行い、今後も多くの方に体験してもらえたらと思う。



○6月25日(日) 第2回むつ川内ホタテフェスティバル

昨年に引き続き川内のおいしいホタテを食べて楽しんでもらおうと、川内漁協の皆さんにご協力いただきホタテフェスティバルを実施した。今年は昨年を上回る来場者を記録し、約1,000人の方にホタテ釣り体験やホタテほやき体験、ホタテデコパージュやホタテ投げなど、陸奥湾の地まきホタテを食べて、活用して楽しんでいただいた。

今後も地域の漁師さんや川内漁協の皆さんと交流を続け、様々な視点から陸奥湾の魅力を発信していければと思う。



2. 翌月の活動予定

7月は以下の活動を行う。

- 7月1日(土) RACアシスタントインストラクター講座
- 2日(日)
- 7月8日(土) 防災士試験
- 7月15日(土) 陸奥湾環境活動体験
- 7月22日(土) ATVアマモイメント